

第 2 回  
広島市競輪運営委員会  
資料

平成29年7月10日  
広島市経済観光局競輪事務局

# ～ 目 次 ～

## 1 競輪事業の仕組み

- (1) 競輪事業の目的……………P1
- (2) 競輪場数等(平成29年4月1日現在)……………P1
- (3) 競輪関係団体・機関(平成29年6月1日現在) ……P2

## 2 広島競輪事業の概要

- (1) 広島競輪場の施設概要……………P3
- (2) 前回答申と包括委託契約の概要……………P4
- (3) 広島競輪事業の関係者……………P5
- (4) 競輪事業継続に当たっての課題……………P6

## 3 平成28年度歳入・歳出決算見込み……………P7

## 4 広島競輪事業におけるこれまでの推移

- (1) 市営競輪及び場外競輪の車券売上高・入場者数……………P8
- (2) 市営競輪の車券売上高の内訳(発売形態別)……………P9
- (3) 単年度収支の状況……………P9
- (4) 基金残高等の状況……………P10
- (参考) 平成28年度の全国競輪事業概要……………P11

## 5 千葉市の競輪事業の存続廃止に係る検討状況

- (1) 千葉競輪場の概要……………P12
- (2) 千葉競輪場の存続廃止検討経緯……………P13、14

# 1 競輪事業の仕組み

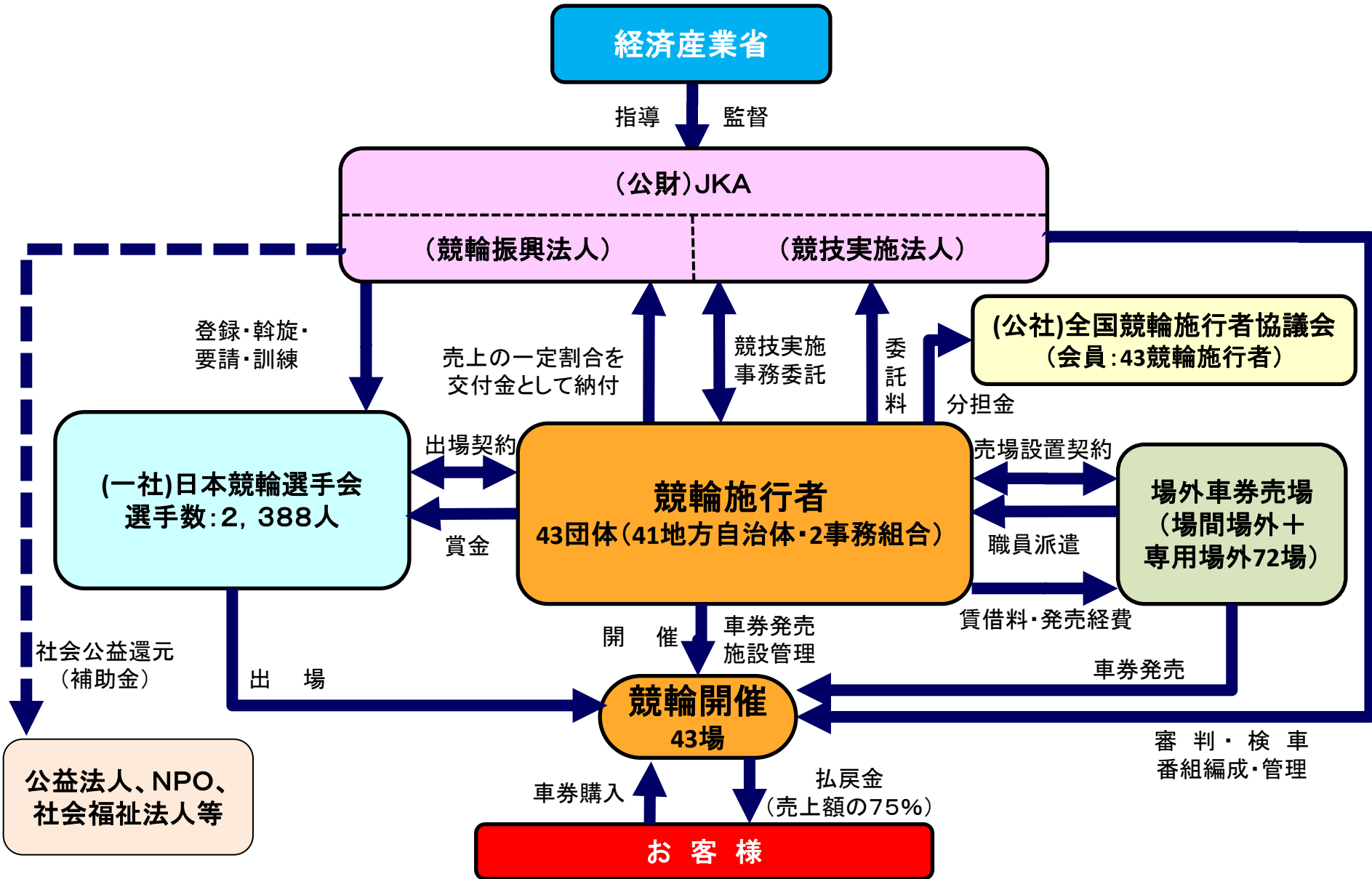
## (1) 競輪事業の目的

- ◆ 競輪事業は、自転車競技法(昭和23年法律第209号) に基づき、
  - ①自転車その他機械工業の振興
  - ②体育、社会福祉など公益の増進
  - ③地方財政の健全化を目的として、都道府県・市町村が実施。

## (2) 競輪場数等(平成29年4月1日現在)

- ◆ 43地方公共団体が、43カ所の競輪場にて実施。
  - 平成25年度以降の廃止場(1場):一宮競輪場(専用場外車券売場へ移行)
  - 平成25年度以降の撤退団体(3団体):一宮市、藤沢市、神奈川県競輪組合
- ◆ 専用場外車券売場数は72カ所。
  - 平成25年度以降の設置場(6場):サテライト前橋、サテライト湖南、サテライト鳥取、サテライト熊本新市街、サテライト川辺、サテライト宇土
  - 平成25年度以降の廃止場(1場):サテライト阿賀野

(3) 競輪関係団体・機関(平成29年6月1日現在)



## 2 広島競輪事業の概要

### (1) 広島競輪場の施設概要

開設	昭和27年(1952年)12月
施設規模	敷地面積 約67,000m <sup>2</sup> (駐車場 約24,000m <sup>2</sup> を含む) (国有地は46,000m <sup>2</sup> 、市有地は21,000m <sup>2</sup> )
	建物延床面積 約22,000m <sup>2</sup>
収容人員	総収容人員 約22,600人(立見を含む) 〔一般観覧席 東スタンド1,122席/西スタンド1,130席 第一特別観覧席 241席 第二特別観覧席 286席(現在閉鎖中) サービスセンター 304席 第1・3投票所休憩室 各80席 駐車場 1,297台〕
発売払戻窓口数	有人 25窓/自動機 36台(最大)
アクセス	JR広島駅から電車、バスで30分

## (2) 前回答申と包括委託契約の概要

### ◆前回答申要旨(平成26年6月5日受理)

1. 競輪事業に係る業務を一括して、民間事業者に可及的速やかに委託すること。委託契約の終期は、最長でも平成30年度までとすること。
2. 民間事業者への一括委託に際して、引き続き就業を希望する従事員については、民間事業者においても雇用が確保されるよう最大限配慮すること。
3. 平成29年度までの事業実績において、
  - (1) 事業収支に単年度赤字が生じた場合。(原因が、天災によるレースの中止等である場合を除く。)
  - (2) 競輪場施設の解体等に必要となる経費及び適正規模の一般会計への繰出しに必要となる資金が確保できないことが明らかとなった場合。  
平成30年度をもって事業を廃止すること。

### ◆包括委託契約の概要(平成27年3月2日契約締結)

委託期間	平成27年4月1日～平成31年3月31日(4年間)
受託者	日本写真判定株式会社(東京都千代田区)
委託料限度額	3億2,392万4,000円(1年当たり)
契約の主な内容	<p>毎年、3億円の収益を保証する。 歳入歳出差引額が3億円に満たない場合、その不足額を補填する。</p> $\left( \begin{array}{l} \text{歳入} = \text{歳入総額} - \text{前年度繰越金} - \text{基金繰入金} \\ \text{歳出} = \text{歳出総額} - \text{施設整備費} - \text{基金積立金} - \text{一般会計繰出} \end{array} \right)$

### (3) 広島競輪事業の関係者

(単位:人)

区 分			平成29年4月(A)	平成26年4月(B) (包括委託前)	増減(A-B)
広島競輪 関係者数	直接的 なもの	一般職	8	15	△7
		市職員	} 包括委託業者に含む	8	△8
		嘱託職員		85	△85
		臨時従事員	} 包括委託業者 へ雇用移管		
	包括委託業者 (日本写真判定株)	93			93
	間接的 なもの	警備, 清掃, 食堂, 選手宿舎, 電気・設備保守・機器保守等	約130	約130	0
		写真判定業務, 総合案内等	包括委託業者に含む	約20	△約20
	競輪関係 団体	(公財) J K A 中四国支部	12	13	△1
(一社) 日本競輪選手会広島支部所属選手		約60	約70	△約10	
合 計			約303	約341	△約38

◆広島競輪場の関係者数(約300人)は、県内「百貨店、総合スーパー」の1店舗当たりの従業者数(約180人)の1.7倍、同じく市内「百貨店、総合スーパー」の1店舗当たりの従業者数(約220人)の1.4倍。

## (4) 競輪事業継続に当たっての課題

### ◆施設の老朽化と耐震性の欠如

観覧席や投票所、開催本部など主要な機能が集まるメインスタンドや東・西スタンドは、震度6～7程度の地震に対し、倒壊し又は崩壊する危険性が高い。

施設名	施工年度 (年)	築年数 (年)	構造	階数	延床面積 (㎡)	耐震診断	
						調査結果	概算改修費
①西スタンド	1968	49	屋根鉄骨造その他鉄筋コンクリート	3	4,420	耐震基準を満たしていない	2億9,500万円
②東スタンド	1969	48	屋根鉄骨造その他鉄筋コンクリート	3	5,581		2億9,200万円
③メインスタンド	東棟	1968	鉄骨鉄筋コンクリート造	4	1,099		1億800万円
	西棟	1971	鉄骨鉄筋コンクリート造	4	1,734		5,800万円
合 計							7億5,300万円

### ◆トータリゼータシステムの老朽化

トータリゼータシステムは、競輪場における車券の発券からオッズの表示と集計、配当金の計算と払戻までの一貫したシステムであり、投票系機器のうちの自動機及び情報系機器の一部が経年により修理部品供給が困難になっている。

区分	台数 (台)	導入年度 (年)	経過年数 (年)	更新費用	
				買取	4年リース(年額)
投票系機器	自動払戻機	6	1997	1億9,984万円	5,468万円
	自動発売機	1	2003		
	自動発払機	29	2003		
情報系機器	音声案内システム	1	2003	1,180万円	323万円
	電話案内システム	1	2003	1,400万円	383万円
	着順制御装置	1	1984	1,850万円	506万円
合 計				2億4,414万円	6,680万円

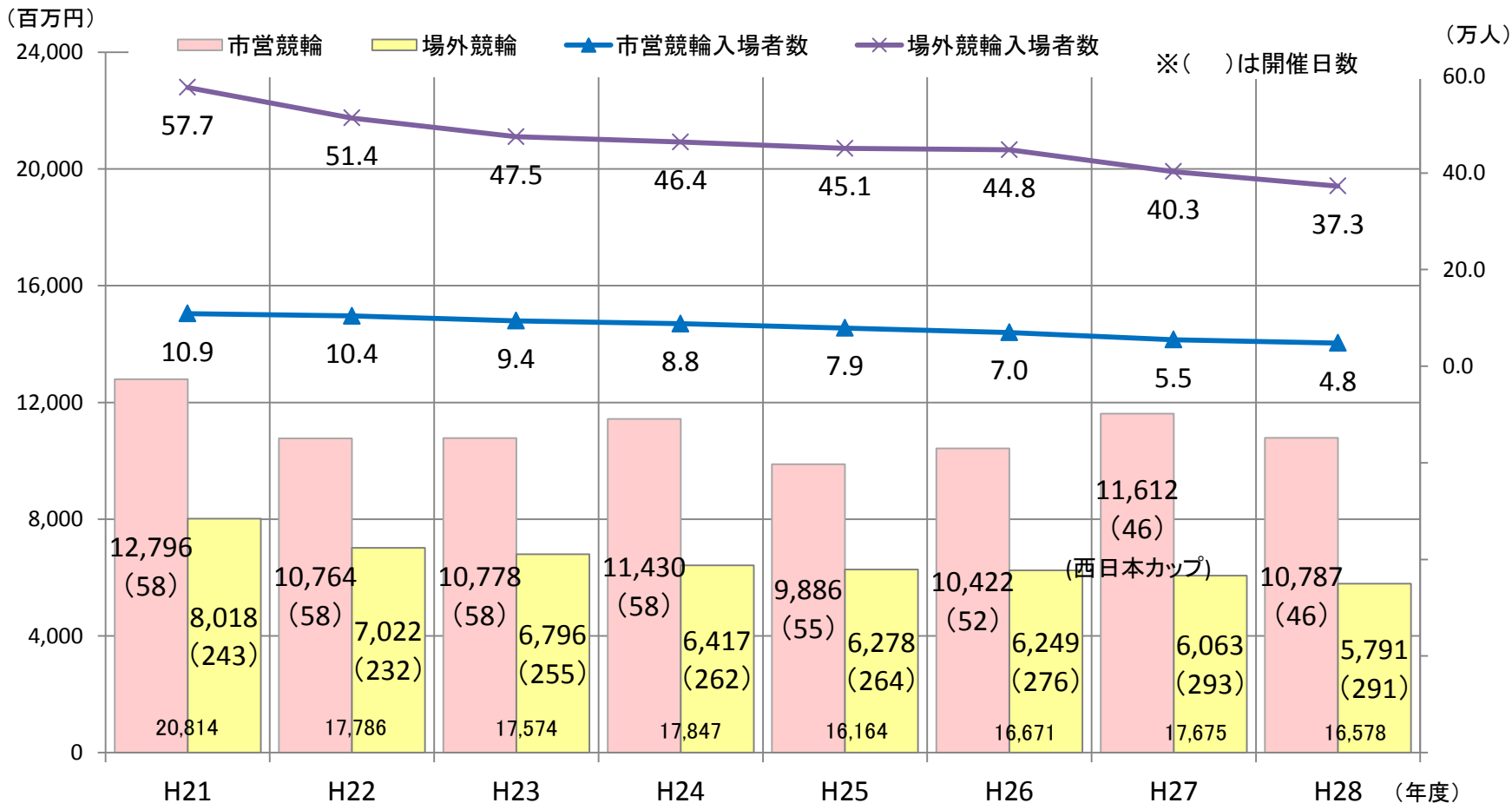
### 3 平成28年度歳入・歳出決算見込み

(単位:百万円)

区 分		平成26年度	平成27年度 (a)	平成28年度 (b)	増減 (b-a)	
		本場日数: 52日 本場入場者: 69,537人 場外日数: 276日 場外入場者: 447,511人	本場日数: 46日 本場入場者: 54,847人 場外日数: 293日 場外入場者: 402,920人	本場日数: 46日 本場入場者: 47,785人 場外日数: 291日 場外入場者: 372,625人		
歳入	収益保証対象歳入	①車券売上(市営競輪)	10,422	11,612	10,787	▲ 825
		②入場料	6	5	4	▲ 1
		③場外収入(施設貸付収入等)	371	334	380	46
		④食堂等光熱水費実費回収金等	15	14	13	▲ 1
		収益保証対象歳入計(①~④) (A)	—	11,965	11,184	▲ 781
		⑤収益保証補填金(3億円-(A-D))	—	31	6	▲ 25
		⑥前年度繰越金 (B)	768	756	742	▲ 14
歳入計 (C)		11,582	12,752	11,932	▲ 820	
歳出	収益保証対象歳出	⑦払戻金	7,774	8,664	8,048	▲ 616
		⑧JKA交付金等	477	500	495	▲ 5
		⑨選手賞金	509	486	486	0
		⑩職員人件費	158	83	75	▲ 8
		⑪国有地借上料	126	125	125	0
		⑫開催経費(場外分)	1,129	1,323	1,088	▲ 235
		⑬インターネット発売経費等	52	93	160	67
		⑭包括委託料	—	309	310	1
		⑮光熱水費等	144	113	103	▲ 10
		⑯開催経費(本場分)	385	—	—	—
		⑰従事員退職金等	49	—	—	—
		収益保証対象歳出計(⑦~⑰) (D)	—	11,696	10,890	▲ 806
		⑱施設整備費等	23	48	10	▲ 38
⑲基金積立金 (E)	0	266	277	11		
歳出計 (F)		10,826	12,010	11,177	▲ 833	
⑳翌年度繰越金(C-F) (G)		756	742	755	13	
単年度収支((G-B)+E)		▲ 12	252	290	38	

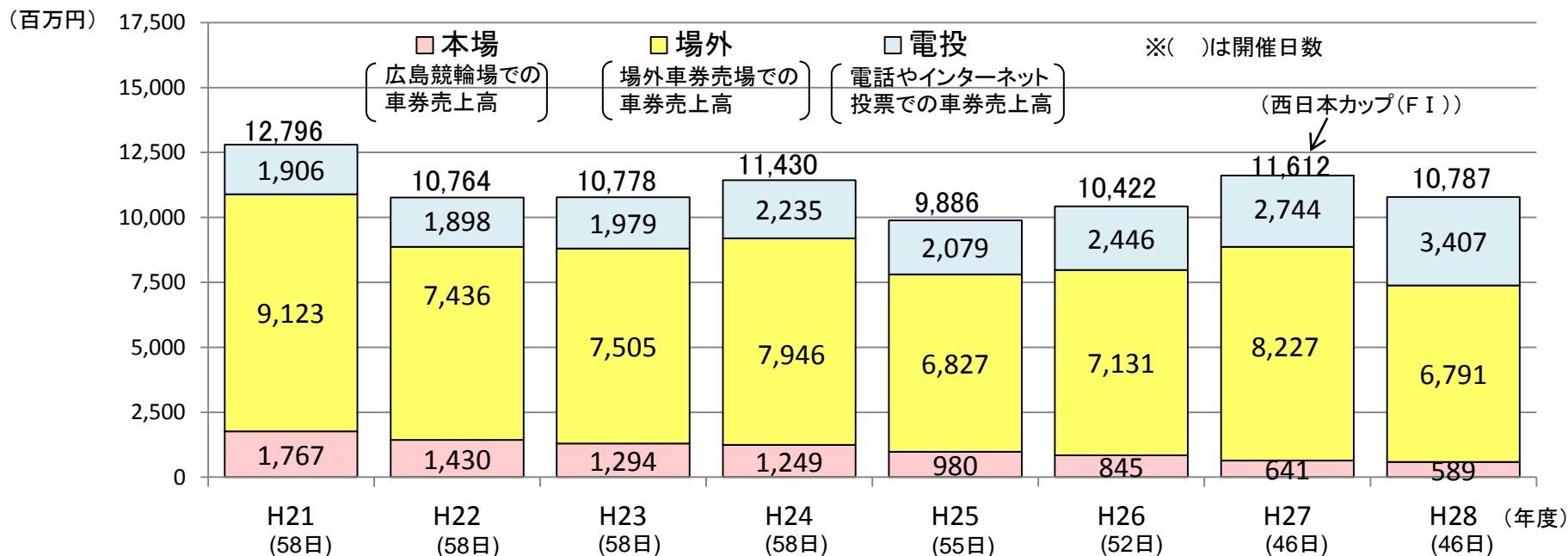
## 4 広島競輪事業におけるこれまでの推移

### (1) 市営競輪及び場外競輪の車券売上高・入場者数

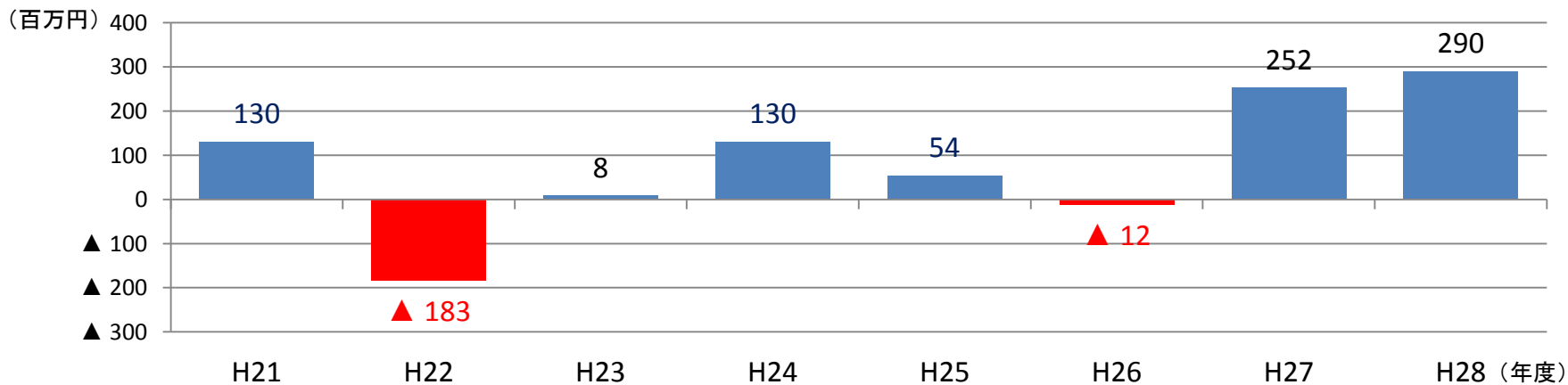


◆平成28年度の1日平均入場者数は、本場の1,043人、場外は1,281人。

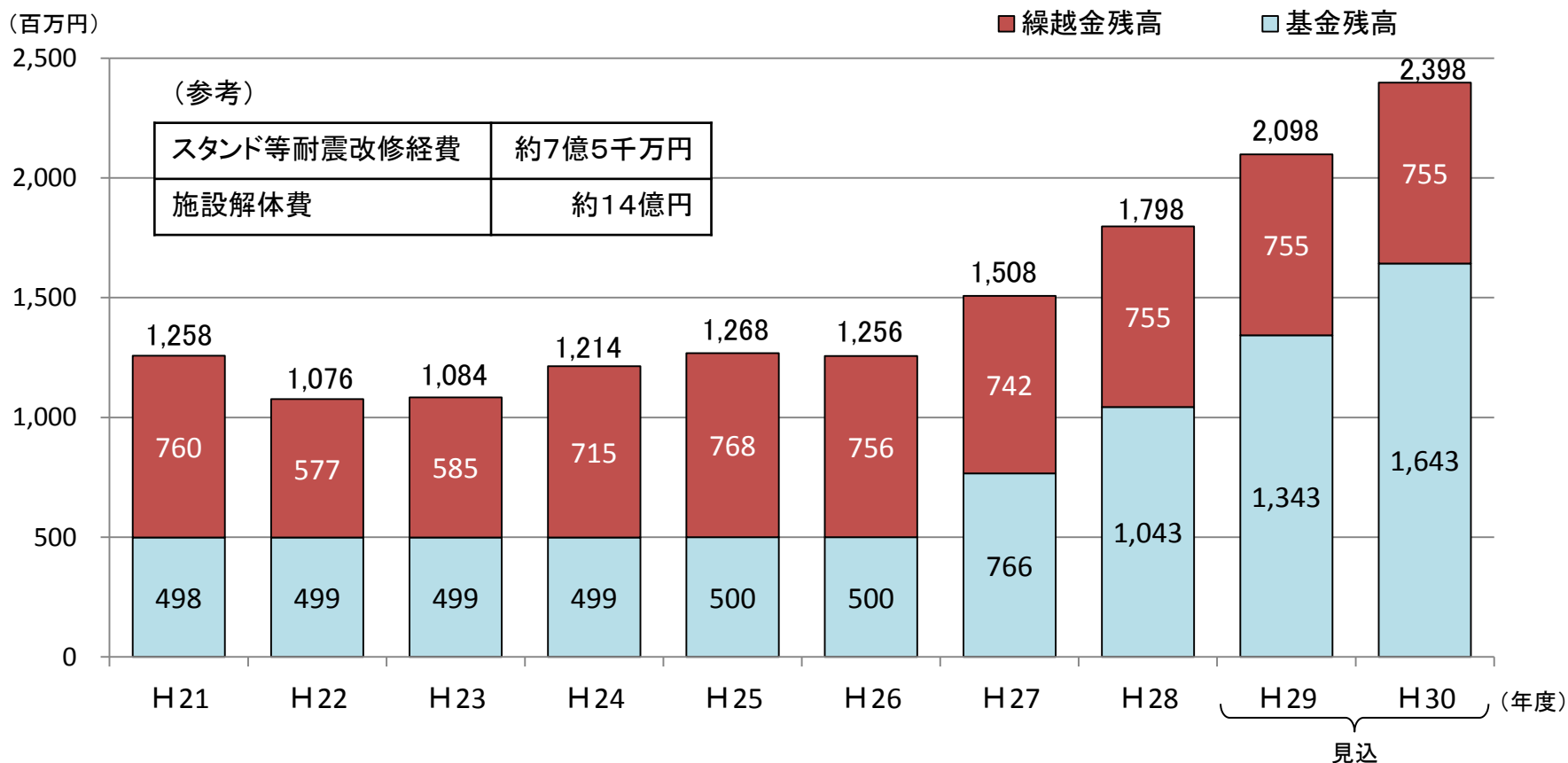
## (2) 市営競輪の車券売上高の内訳(発売形態別)



## (3) 単年度収支の状況



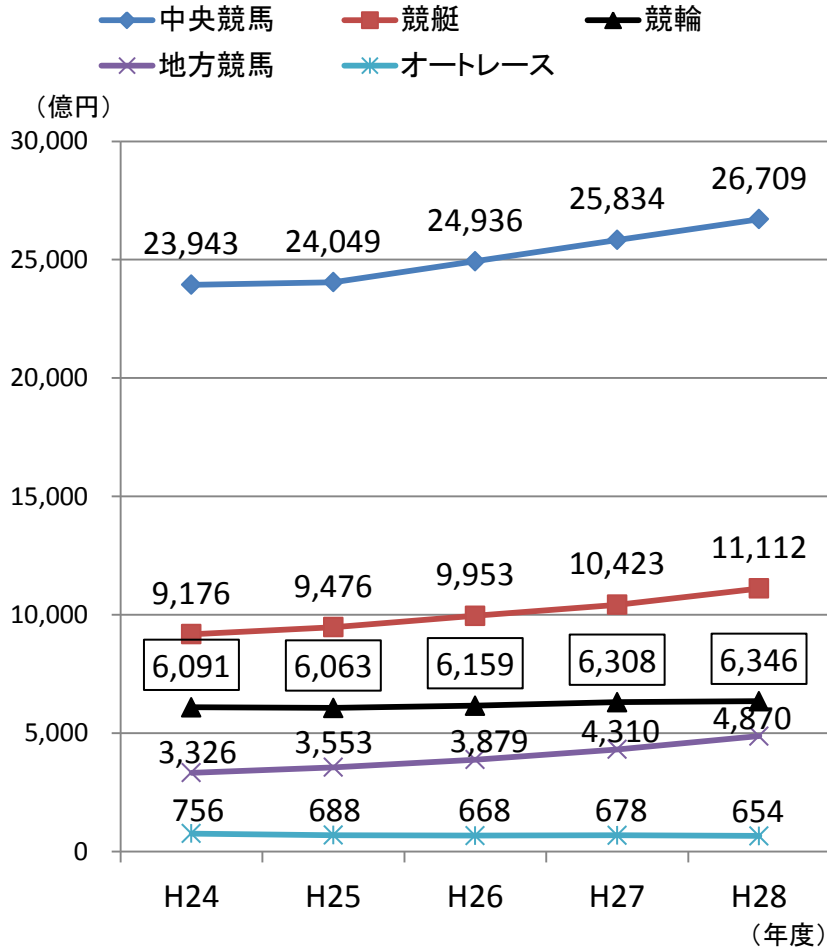
## (4) 基金残高等の状況



「基金」と「繰越金」とを合わせた残高は、平成27年度からの包括委託の導入による収益保証により、委託期間満了の平成30年度末には約24億円になると見込まれ、平成31年度以降、競輪事業を継続する場合の耐震改修経費(約7億5千万円)、或いは廃止する場合の施設解体経費(約14億円)を賄うことができると考えられる。

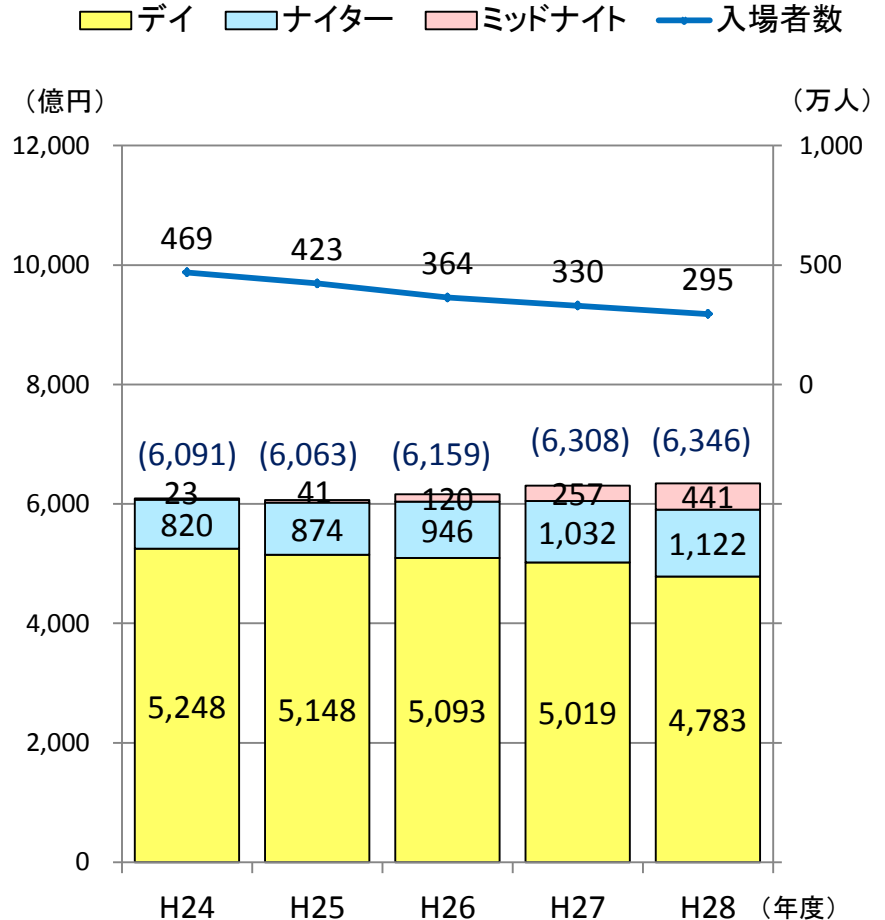
# (参考) 平成28年度の全国競輪事業概要

(1) 全国ベース各公営競技の売上高の推移



近年、公営競技全体の売上げは、緩やかな右肩上がり。

(2) 全国ベース競輪事業の車券売上高・入場者数の推移



レースの開始時間が遅いナイター、ミッドナイト競輪の売上げが増加。

## 5 千葉市の競輪事業の存続廃止に係る検討状況

### (1) 千葉競輪場の概要

区分	千葉競輪場 	広島競輪場 	
開設	昭和25年8月	昭和27年12月	
敷地面積	敷地面積 約4万4,000㎡ (うち、国有地約3万1,000㎡。 年間賃借料は約1億2,000万円)	敷地面積 約6万7,000㎡ (うち、国有地約4万6,000㎡。 年間賃借料は約1億2,500万円)	
所在地	千葉県千葉市中央区弁天	広島市南区宇品海岸	
アクセス	JR千葉駅から無料送迎バスで3分、徒歩で15分 JR西千葉駅から徒歩で10分	JR広島駅から電車、バスで30分	
駐車場	約500台	約1,300台	
収容人員	総収容人員 約3万4,500人(立見含む)	総収容人員 約2万2,600人(立見含む)	
平成27年度	開催日数	46日	46日
	来場者	57,137人	54,847人
	車券売上	120億7,400万円	116億1,200万円
	単年度収支	2億1,200万円	2億5,200万円
運営形態	包括委託(日本写真判定株式会社)	包括委託(日本写真判定株式会社)	

## (2) 千葉競輪場の存続廃止検討経緯

年 月	事 項
平成25年4月1日	千葉競輪開催業務について包括委託(第1回目)を実施。
	期 間 平成25年4月1日から平成28年3月31日まで
	受 託 業 者 日本写真判定株式会社
	包括委託額 13億2,100万円(3年間)
平成27年1月23日	以下の理由により、平成29年度末をもつての事業廃止に向けて、関係機関との調整作業に着手することを記者発表。 「車券売上の低迷により事業収支が悪化している状況に変化がなく、平成30年度から単年度赤字が継続する見込みであること。施設の著しい老朽化が進んでおり、今後、事業の継続に必要な施設の大規模修繕費を捻出できるだけの事業収益を確保することが困難であること。事業廃止後の施設・用地の取り扱い方針を決定するまでに一定の期間を要すること。(記者発表資料)」
平成28年4月1日	千葉競輪開催業務について包括委託(第2回目)を実施。
	期 間 平成28年4月1日から平成30年3月31日まで
	受 託 業 者 日本写真判定株式会社
	包括委託額 9億5,000万円(2年間)
平成28年6月	包括委託業者が千葉市に対して、国際規格にのっとった屋内板張り250メートルトラックを有する多目的施設を自社負担にて整備し、スポーツ施設として運営したいとの提案。

## (2) 千葉競輪場の存続廃止検討経緯(つづき)

年 月	事 項
平成28年12月5日	<p>市議会での「競輪事業」の「今後の見通しについて」の質問に対し、副市長の答弁。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今後の競輪事業に関しましては、本市競輪事業の包括委託先事業者である日本写真判定株式会社から、国際規格にのっとった屋内板張り250メートルトラックを有する多目的施設を自社負担にて整備し、スポーツ施設として運営するとともに、国際ルールに基づく競輪を実施するとの提案がございました。</li> <li>・事業者の提案では、新たな施設を自転車を中心としたスポーツの拠点として運営するとともに、競輪事業につきましては、新たなスタイルの競走により幅広い年齢層の新規ファンを開拓し、売り上げの向上などを図るとして、また、平成29年度末をもっての廃止に向けた主たる理由である施設の著しい老朽化に伴う大規模修繕費用の捻出についての課題も解消されるものとなっております。</li> <li>・この提案内容につきましては、競輪事業を含む施設全体の運営に関する事業者側の事業計画や収支についての精査、国際ルールに基づく競輪を実施するための諸規程の変更など、実現に向けて整理が必要となる課題がございますが、競輪事業の今後についての選択肢の一つとして、関係団体等との協議などの検討作業に着手したところでございます。</li> </ul>
平成29年5月28日	<p>千葉市長選で、「千葉競輪場について、民間活力を導入して市民が利用できる多目的アリーナ(競技場)を整備し、自転車トラック競技の国際ルールに準拠した競輪を実施することで、競輪場としての新たな賑わいに加えて自転車スポーツ振興の拠点としてリニューアルする。」ことをmanifestoに掲げていた現職市長が再選。</p>
今後の見込	<p>平成29年度上期を目途に最終的な判断。</p>

# 広島市競輪運営委員会

次回開催予定：平成29年10月中旬～11月上旬

